

△退任△挨拶  
別院列座大山龍慈氏



このたび一身  
上の都合により  
退職することに  
なりました。  
当院職員とし

て勤める中で真宗の僧侶としてどうあるべきかを少し感じられたかと思えます。教師修練以来、「一人前の僧侶」とはいったいどのようなものかと考えていました。積極的に当院を盛り立てようとしてくださる山城一、二組の住職のかたがたや、当院に足を運んでくださるかたがたのお姿を日々目の当りにして、以前とは考え方が変わっていきました。

以前「一通り教学と声明ができる僧侶」と言いましたが、違うことに気づかれました。一人前の僧侶とは、どこまでも親鸞聖人の教えのもとに、人とかがわり続けるものだと考えています。裏を返せば、どこまでいっても一人前にたどり着かないものだと思っています。

これからの真宗の僧侶としての歩みの中で、当院で学んだことを実践していきたいと思えます。

△新人紹介△  
別院列座竹中明大氏



大山さんの引き継ぎとしてこちらの別院でこれからお世話になる

ことになりました竹中と申します。昨年まで学生をやっております。この岡崎別院で初めて社会人としての第一歩を踏み出すことになりましたが、一月ほどたつたいまでも、毎日の生活リズムになかなか慣れることのできない日々を送っております。

私がお寺で生活するにあたって忘れてはいけないと思うことが二つあります。

一つは、仏法を積極的に聞いていくということです。

二つ目は、自分で本を読んだり、勉強しなければいけないということです。

この別院での生活は、私にとって辛いことも厳しいこともありますが、月に何度も法話を聞く機会がありますので、この二つをけつして忘れずにこれから生活していきたいと思えます。

鏡池だより

～灯台本くらし～

第9号  
平成23年  
(2011年)  
10月・11月  
・12月号  
発行：編集  
岡崎別院  
輪番 福田 大

今年もあつという間に当院の報恩講の時期を迎えることとなった。

私にとっては、毎月の法座案内では日が迫ってくる送送に追われ、年間行事ではお莊嚴に追われ、そのどれもがしなければならぬという強迫観念に駆られながらでしかできていない。

これが済めば次はあれ、あれが済めば次はというのが私の生活の実態だ。このころ、自分でも気づかないほど、無自覚のうちによく違うことがある。それは「とりあえず」ということである。「とりあえずやるところ」「とりあえずこれからしようか」など、日に何度となく違ってしまっている。「とりあえず」で始まり「こんなもんだ」で終わっていく、そんな私の人生を蓮如上人は御文の中で「ただいたずらにあかし、いたずらにくらし、老のしらがとなりはてめる身」と言い当てられた。

ある師は「しなければならぬことではなく、せすにおれないことと出会いなさい」と言われた。この師のことは「あなたは義務で生きるのですか、それとも願いに生きるのですか」と、この私を問い続けている。

日ごろ、仏法聴聞、教化が大事と言いながら、実はこの私がいちばん仏法から遠い存在であり、仏法を聞いていることにしている自分に対し、蓮如上人は「灯台本くらし」と言われていることを、「境池だより」の原稿に追われながら、いまあらためて知らせてもらっている。



27日 古田和弘師



26日 水島見一師



25日 袁輪秀邦師

△朝の法話△

七月二十五日、二十六日、二十七日に開催されました暁天講座、朝の法話には、ことしも三日間で四百人余りの多くのかたがたに、法話を御聴聞にお願いいただきました。

御法話をお聞きくださいました皆様には、この紙面をお借りしてあつく御礼申し上げます。

△岡崎別院茶道教室△

十月の水島宗葉師による

茶道教室案内

- 一日(土)十時～
- 三日(月)十時～
- 八日(土)十時～
- 十日(月)十時～
- 十五日(土)十時～
- 十九日(水)十時～



池田勇諦師(同朋大学名誉教授)にごい法話をいただきます。

# 梅香記

このたび近郊寺院(主に山城第一組・第二組)が各寺の機関紙や組内の案内書類、行事のポスターを自由に制作でき、別院本来の姿である教化の中心としてみなさまがたの一翼を担えることを願いとして、山城第二組専光寺住職中川専精氏より左記写真の印刷機・紙折り機・裁断機を御寄贈いただきました。

この御厚情に対して、みなさまがたに御使用いただけるよう、このお知らせいたします。

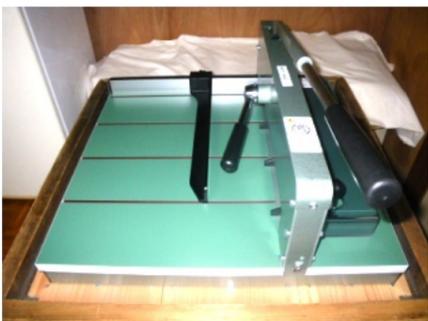
なお紙代・印刷代は下記の「冥加金表」とおりとなりますので、あらかじめ御確認いただきますようお願い申し上げます。



印刷機



紙折り機



裁断機

冥加金表	
レーザープリンター・コピー	
モノクロ	A4以下 一枚 五円
カラー	A3・B4 一枚 一〇円 A4以下 一枚 三〇円 A3・B4 一枚 六〇円
輪転機	
紙代	A4 五〇〇枚三〇〇円 A3・B4 五〇〇枚六〇〇円
印刷代	五〇〇枚まで一〇〇円

## 分陀利華

伯父の死を通して、いま伯父とともに

先日、伯父が亡くなった。八十五歳を一期として精いっぱい生きた生涯だった。次男として誕生しながらも、長男の戦死により家を継ぎ、自分の都合もわがままも通せず、まったく家の犠牲を余儀なくされた生涯であった。しかしながら本人からそのことの泣言や愚痴はほとんど聞かされたことはなかった。天性の明るい性格で、周りをほほえませるのが伯父であった。子どもに男の子がいなくてもあり、私は幼いころよりたいへん大事にされた。一緒に旅行に行ったり、大きくなってからは酒を酌み交わし談笑することもあり、そのときに伯父から助言や忠告をもらったことである。

「一回やり始めたことは最後までやれ」。これは私の人生の節目で言ってくれた伯父の一言である。伯父の臨終の姿から「坊さんとして一生を尽くせよ」と言われている気がした。そのことは無自覚に過ごす私生活の中で「坊さんとはなんぞや」という根本的な問いとして、いま私まで至り届いている。その問いの中で伯父と出合いながら、伯父とともに歩んでいこうと念(おも)っている。

## 法座のご案内

### 三日講

毎月3日午後2時  
「宗祖を訪ねて」

毎月13日午前9時半  
「味読正信偈」  
引き続き「雑炊の集い」

毎月23日  
「定例法座」  
10月はお休みです。  
11月 本山報恩講参詣 九時半  
12月 山城第一組新道寺住職 磯野淳師

### 報恩講

10月23日(土)午前10時  
信悟院殿 御参修  
池田勇諦師 法話

## 別院往来

研修生(ハワイ開教区派遣予定)

本多真 原点復帰

私にとって岡崎別院の研修は特別な意味がありました。私は大谷専修学院で二年間勉強させていただき、本科を山科、別科をこの岡崎で過ごしました。この地が私の回心の地であり、仏道を歩みだした原点であります。しかし、専修学院を卒業してわずか一年と半年ほどですが、私は日々の生活に墮落していました。専修学院は夏休みでだれもいませんでしたが、それでもこの地で過ごした思い出とともに、先生がたの言葉が仏道を歩みだした原点を思い出させてくれました。もしかしたら親鸞聖人もこの地より吉水に通い学ばれ、流罪の後にこの地に帰ってこられたときも同じような心境だったのかと、歴史ロマンに思いをはせながら勉強させていただきました。



前田寛子

このたび海外開教使として本山での研修の一環として、岡崎別院に十日間お世話になりました。輪番の福田さんをはじめ、列座のみなさんに朝のお給仕の仕方から事務の仕事(寺報づくりなど)を一つ一つ教わりました。その中でいちばん印象に残っていることは、忙しい中、私たちのために模擬の仏前結婚式をしてくださったことです。仏弟子として人生の節目を宗祖の前で誓うという大切な儀式を、日本だけではなく海外の御門徒のみなさまにも伝えていけたらと思います。このあとも、研修は続きますが、いろいろなたがたのお話をゆっくり聞ける日々を過ごせることを願っています。

